

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-177001

(P2002-177001A)

(43) 公開日 平成14年6月25日 (2002. 6. 25)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	7-73-7 (参考)
A 4 3 B 3/10		A 4 3 B 3/10	P 4 F 0 5 0
3/24		3/24	L

審査請求 未請求 請求項の数10 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2001-313162(P2001-313162)

(22) 出願日 平成13年10月10日 (2001. 10. 10)

(31) 優先権主張番号 1 0 0 8 1 1 2 3. 0

(32) 優先日 平成12年12月7日 (2000. 12. 7)

(33) 優先権主張国 ドイツ (D E)

(71) 出願人 501395465
ウエルナー・カール・シュテグマン
ドイツ連邦共和国 ケルミュンツノイター
レッヒベルクリング 18

(72) 発明者 ウエルナー・カール・シュテグマン
ドイツ連邦共和国 ケルミュンツノイター
レッヒベルクリング 18

(74) 代理人 100081815
弁理士 矢野 敏雄 (外4名)

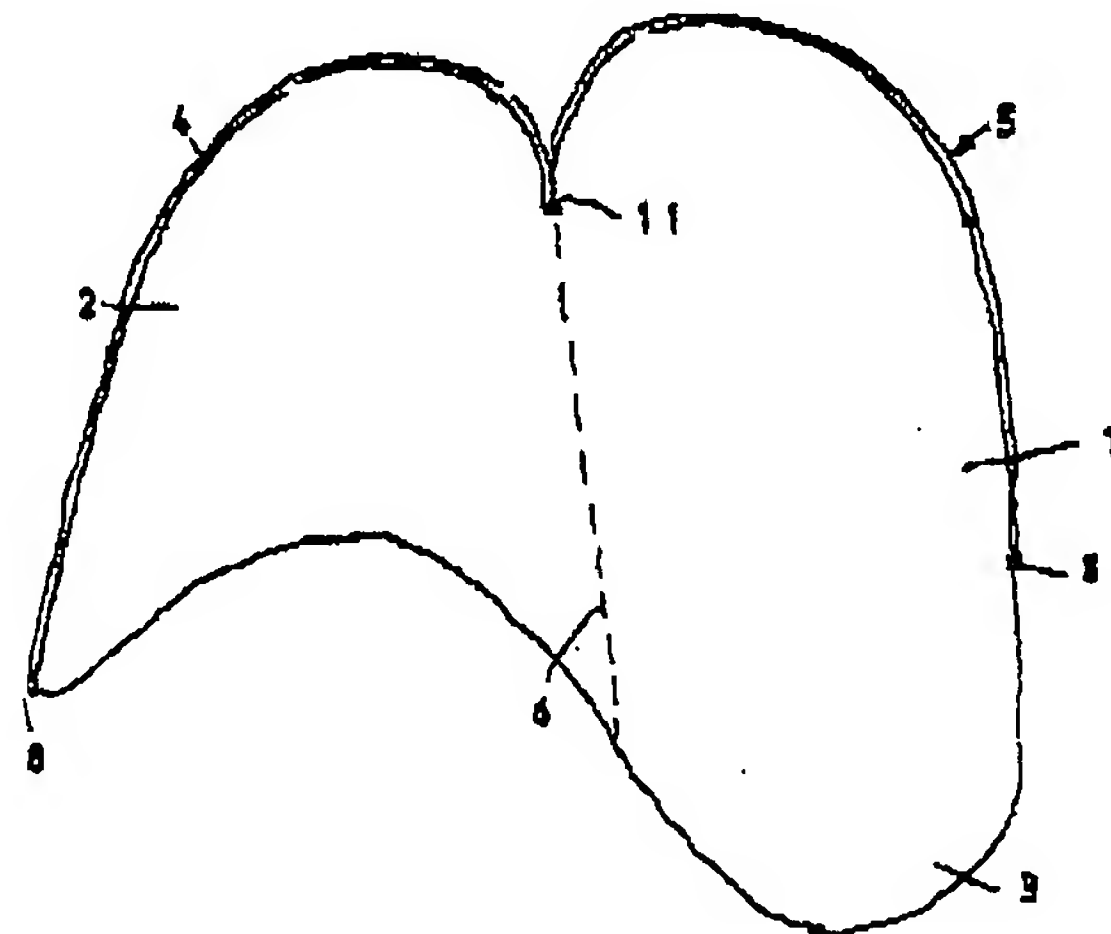
Fターム(参考) 4F050 AA11 AA24 AA25 BA31 BC03
BC25 BC42 BC47

(54) 【発明の名称】 ソール部分と上部部分とから成る靴

(57) 【要約】

【課題】 靴であって、ソール部分1と、ソール縁部3に沿ってソール部分1と結合する上部部分2とから成っている形式のものを改良して、梱包された状態でできるだけ小さな所要スペースを有しているようなものを提供する。

【解決手段】 ソール部分1と上部部分2との結合が部分的に結合手段4によって得られ、結合手段4が開いた状態で前記上部部分2をソール平面に折り畳むことができるようになっている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 靴であって、ソール部分(1)と、ソール縁部(9)に沿って該ソール部分(1)と結合する上部部分(2)とから成っている形式のものにおいて、前記ソール部分(1)と前記上部部分(2)との結合が部分的に結合手段(4)によって得られ、該結合手段(4)が開いた状態で前記上部部分(2)をソール平面に折り畳むことができるようになっていることを特徴とする、ソール部分と上部部分とから成る靴。

【請求項2】 前記ソール部分(1)および前記上部部分(2)がほぼ同じ材料、有利にはフェルトから成っている、請求項1記載の靴。

【請求項3】 前記ソール部分(1)と前記上部部分(2)とのための一体的な裁断部分(5)が存在する、請求項1または2記載の靴。

【請求項4】 前記ソール部分(1)、特にその下面に、追加的なソールが配置されている、請求項1から3までのいずれか1項記載の靴。

【請求項5】 前記結合手段(4)が靴の前方領域と外側領域とに配置されており、該結合手段(4)が設けられていない、前記ソール部分(1)の、前記上部部分(2)との結合部分(8)が前記ソール部分(1)の内側エッジに沿って延びている、請求項1から4までのいずれか1項記載の靴。

【請求項6】 スリッパ状の靴が形成されており、該靴の前記ソール部分(1)の後方領域に前記上部部分(2)が設けられていない、請求項1から5までのいずれか1項記載の靴。

【請求項7】 半靴状の靴が形成されている、請求項1から6までのいずれか1項記載の靴。

【請求項8】 深靴または半深靴状の靴が形成されている、請求項1から7までのいずれか1項記載の靴。

【請求項9】 結合手段として、単数または複数のファスナ、係合解除可能なファスナ、面ファスナまたはそれに類するもの、ボタン、スナップ、ボタンまたはスナップ列、もしくはループが設けられいる、請求項1から8までのいずれか1項記載の靴。

【請求項10】 1組のファスナ(4)が互いに結合可能で、開いた状態の裁断区分またはそれに類するものが縁部部分に沿って互いに結合可能である、請求項1から9までのいずれか1項記載の靴。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、靴であって、ソール部分と、ソール縁部に沿ってソール部分と結合する上部部分とから成っている形式のものに関する。

【0002】

【従来の技術】特定の靴種、たとえば室内用靴では、トランクケースなどに靴を収納するという要求が存在する。梱包された状態では、靴はできるだけ僅かな所要ス

ペースを有しているのが望ましく、それにもかかわらず使用価値の低下は望まれていない。

【0003】ドイツ連邦共和国実用新案登録第8716548号明細書によって、上部部分をソールから取り外すことが可能で、この上部部分を簡単な形式で所望の別の上部部分で代用することができる屋外用靴が公知である。一般的な形状で形成されている上部部分は、ソールに向いた底部で開放していて、かつ着脱可能な係止装置を備えており、この係止装置を用いて上部部分はソールと結合可能である。したがって天候状態または各使用者の好みに応じて、それぞれ異なる上部部分を使用することができる。

【0004】米国特許第4214383号明細書によって、特にスリッパの形状で構成された1組の靴が公知であり、1組のスリッパの両方の構成部分がファスナによって互いに結合可能であり、この結合は、両方のスリッパ構成部分が一種の梱包物として、家での保管もしくは製造者から小売りなどへのスペースの節約された搬送に適合するように行われる。

【0005】米国特許第5822888号明細書によって、交換可能な靴が公知であり、この靴は交換可能な中間ソールを備えていて、特に種々異なる一連の靴種を1組の靴にまとめるのに適している。

【0006】ドイツ連邦共和国実用新案登録第7241339号明細書によって、液密材料または撥水性材料から成る、丸めることのできる軽量靴もしくは深靴が公知である。この靴または深靴は、スキーリフトからまたはスキーリフトへの移動経路を容易にすることを望まれており、小さく丸めることによって、この靴または深靴はアノラックまたはウエストポーチなどに詰め込むことができる。このような靴は単に1つの構成部分から製作されていて、丸めるためにソール側にソールストリップを備えている。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】したがって本発明の課題は、冒頭で述べたような形式の、ソール部分と上部部分とから成る靴を改良して、梱包された状態でできるだけ小さな所要スペースを有しているようなものを提供することである。

【0008】

【課題を解決するための手段】この課題を解決するための本発明の装置によれば、ソール部分と上部部分との結合が部分的に結合手段によって得られ、結合手段が開いた状態で上部部分(をソール平面に折り畳むことができるようになっている。

【0009】

【発明の効果】通常靴は立体的な形状を有しており、それに対応する所要スペースが必要であるが、本発明によって、結合手段が開いた状態で、靴はほとんどの部分で一平面に存在することができる。所要スペースは、極め

て小さく維持することができる主にソール部分または上部部分の厚さによってしか制限されなていない。しかも本発明によれば、靴が使用状態で一般的な形状を有していて、簡単に使用可能で、かつ足を所望の形式で覆うことができる。

【0010】本発明の靴は、種々異なる形式で構成することができる。一般的にはスリッパ形状で形成すると有利であるが、本発明はスリッパ形状に限られるものではない。この靴は半靴、深靴または半深靴として形成することもできる。

【0011】本発明の靴のための結合手段は、1つまたは2つの構成部分から成るファスナであってよい。しかもこの結合手段は3つ以上のファスナから成っていてもよい。係合解除可能なファスナまたは面ファスナを使用することもでき、ボタンまたはスナップによる結合手段も考えられる。この場合ボタンまたはスナップはボタン列またはスナップ列として形成することもできる。別の実施形態では、ループである結合手段も設けられている。

【0012】特に本発明によって、ソール部分と上部部分とをほとんど同じ材料、有利にはフェルトから形成することが提案されている。しかも、たとえば革または合成革などの別の材料を使用することもできる。

【0013】公知技術でこれまでに公知のあらゆる形式の靴とは異なって、提案された本発明は、本発明に基づく実施形態によってできるだけ扁平な構成が得られる、という利点を有している。このできるだけ扁平な構成は、特に、たとえば旅行時に旅行鞆に収納するか、もしくは靴棚または下駄箱にスペースを節約して詰め込むのに適している。上部部分が下部部分から分離可能であるこれまで公知のあらゆる形式の靴は、靴の使用時に、種々異なる上部部分と下部部分とが組み合わされることによって、ある種の節減性が得られるということについて考慮されている。したがって旅行鞆もしくは家の靴棚または下駄箱での、スペースの節約された保管性は得られない。1組の靴の2つの構成部分を結合することは、とりわけスリッパにしか適しておらず、この結合は結果的にある程度のスペース節約をもたらしているが、結局のところこの構成では上部部分は下部部分から分離されず、本発明の実施形態と比べて所要スペースが著しく大きくくなっている。本発明によって提案された実施形態の利点によれば、一方では梱包された状態で貯蔵もしくは保管のために極めて僅かな所要スペースしか必要でなく、他方ではそれにもかかわらず使用価値が完全に満たされている。つまり、室内用靴としても、あらゆる別の靴形状（半靴、深靴または半深靴）としても製作することができる。

【0014】本発明の別の特徴は、以下の説明と従属請求項とから明らかである。

【0015】

【発明の実施の形態】次に本発明の実施の形態を図示の実施例を用いて詳しく説明する。

【0016】図1には、ソール部分1と上部部分2とを備えた一体的な裁断部分5が示されている。ファスナ4は二重線で示されている。開いた状態では、ファスナの開閉具7が位置11に存在する。

【0017】ソール部分と上部部分との間の、ファスナの設けられていない結合部分が鎖線6で示されている。ファスナはソール縁部の一部にわたって延びていて、これに対してソール縁部3にはファスナが設けられていない。

【0018】図2には、スリッパ状に形成された靴が使用状態で示されている。開閉具7は外側に配置されており、使用状態では、図1に符号8で示された位置に存在する。

【0019】図3には、かかと部分9も備えた（半）靴が示されている。この靴には2つのファスナ4；14が設けられていてよく、これらのファスナ4；14の開閉具7は使用状態で互いに当接するようになっている。

【0020】図4には、図3に示した半靴と基本的に同様に形成された半深靴が示されている。ソール部分は後方領域の下面に段部10を備えている。

【0021】図1に示した実施例は、たとえばソール部分1および上部部分2のためにそれぞれ1つのファスナが設けられているように変化させることができる。ファスナは係合解除可能であり、協働する1組のファスナでは、開閉具は一方ではソール部分に、また他方では上部部分に対応配置されている。このようにして1組のファスナの両方の構成部分は靴の開いた状態で互いに結合することが可能であり、この場合両方の裁断区分またはそれに類するものが上下に重ねられる。これによって開放部を備えたポケットが得られ、これによって別の有用性が得られる。

【0022】本願で提出した特許請求の範囲の請求項は、別の請求項の申請を断念するものではない。

【0023】従属請求項に記載の引用は、各従属請求項の特徴による独立請求項の対象の別の構成を意味する。しかしながらこれらの引用は、引用した従属請求項の特徴の独立した権利保護の獲得の断念を意味するものではない。

【0024】これまでに明細書で開示したに過ぎない特徴は、特許審査過程において、たとえば公知技術との限定のために用いるために、本発明で重要なものとしての意味を成している。

【図面の簡単な説明】

【図1】ファスナが開いた状態の、本発明の靴を示す平面図である。

【図2】ファスナが閉じた状態の、図1に基づく靴を示す図である。

【図3】本発明の別の実施例を示す図である。

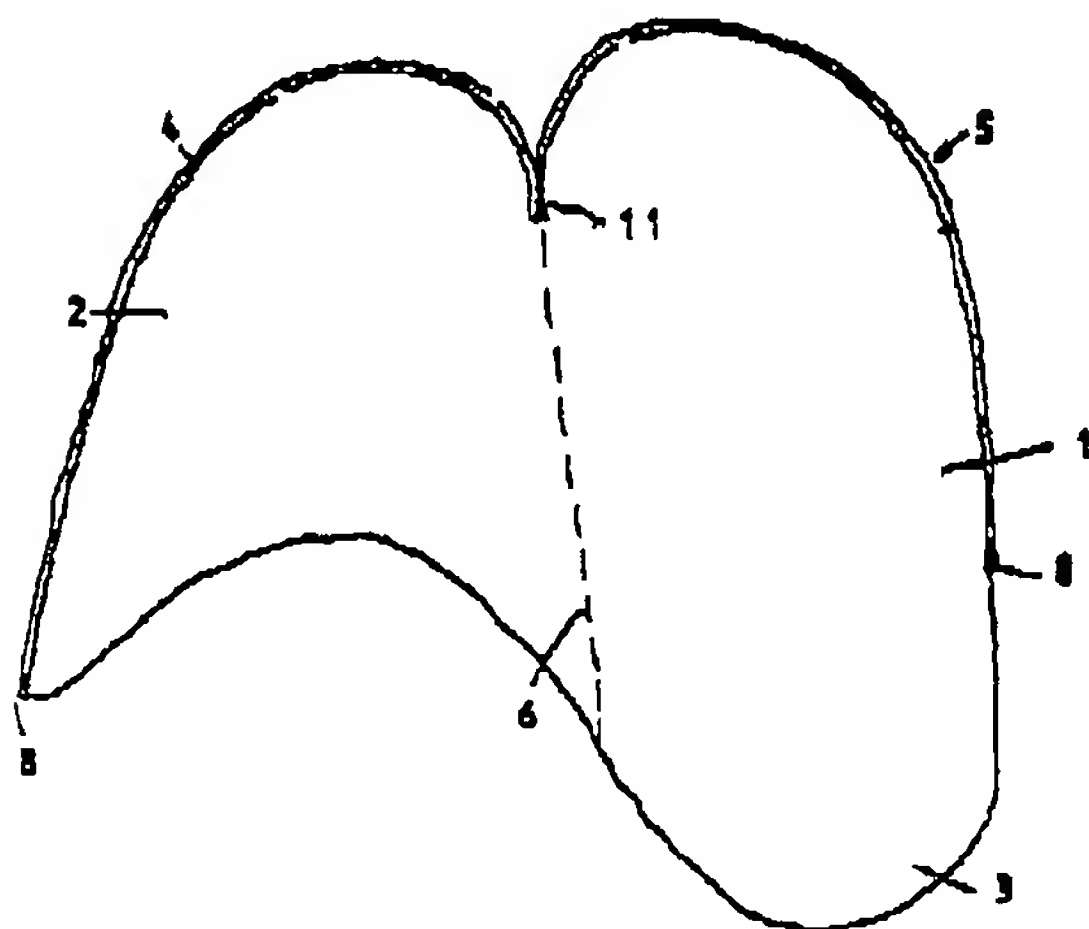
【図4】本発明の別の実施例を示す図である。

【符号の説明】

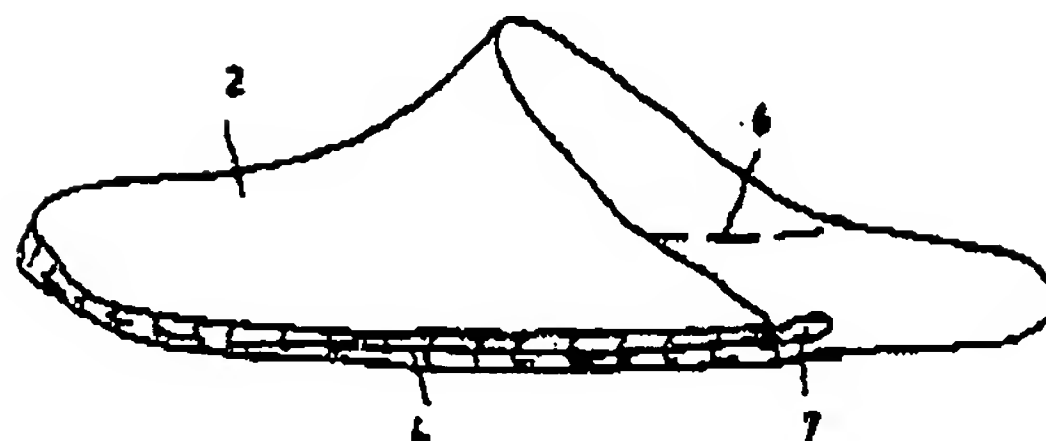
1 ソール部分、 2 上部部分、 3 ソール縁部、 *

* 4 ファスナ、 5 裁断区分、 6 鎖線、 7 開
閉具、 8 位置、 9 かかと部分、 10 段部、
11 位置 14 ファスナ

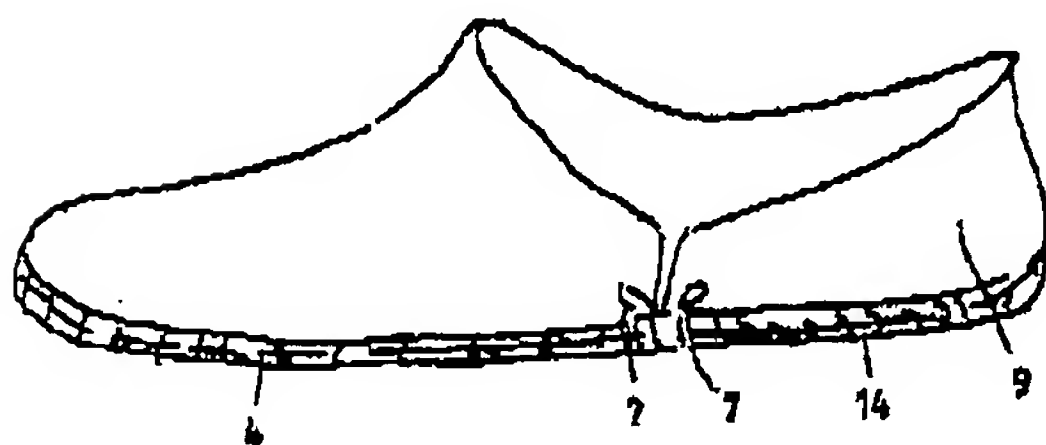
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

